

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **114** 号

令和2年 7・8・9月



模造 黄金瑠璃鈿背十二稜鏡（宮内庁正倉院事務所）

特別展

御大典記念 特別展
よみがえる正倉院宝物
—再現模造にみる天平の技—
7月4日(土)～9月6日(日)
東・西新館

名品展

珠玉の仏たち
通期開催 なら仏像館
中国古代青銅器
通期開催 青銅器館

よみがえる正倉院宝物 ―再現模造にみる天平の技―

7月4日(土)～9月6日(日)

※会期が変更となりました

正倉院宝物とは、奈良・東大寺の倉であつた正倉院正倉に伝えられた約九千件におよぶ宝物です。聖武天皇ゆかりの品をはじめ、その多くが奈良時代の作で、調度品、楽器、遊戯具、武器・武具、文房具、仏具、文書、染織品など、多彩な内容をもちます。中には、西域や唐からもたらされた、国際色豊かな品々も含まれます。

正倉院宝物の本格的な模造製作は、明治時代に奈良で開催された博覧会を機に始まりました。当初、模造製作は修理と一体の事業として取り組まれ、昭和四十七年(一九七二)からは、宝物の材料や技法、構造の忠実な再現に重点をおいた模造製作がおこなわれるようになります。以来、人間国宝ら伝統技術保持者の熟練の技と、最新の調査・研究成果との融合により、芸術性・学術性の高い優れた作品が数多く生み出されてきました。

本展は、天皇陛下御即位をはじめとする皇室の御慶事を記念し、これまでに製作された数百点におよぶ正倉院宝物の再現模造作品の中から、選りすぐりの逸品を一堂に公開するものです。再現された天平の美と技に触れていただくとともに、日本の伝統技術を継承することの意義も感じていただけますと幸いです。



模造 赤地唐花文錦 (宮内庁正倉院事務所)



模造 酔胡王面 (宮内庁正倉院事務所)



模造 螺鈿玉帯箱 (東京国立博物館)



模造 木画紫檀双六局（奈良国立博物館）



模造 青斑石龜合子（宮内庁正倉院事務所）



模造 螺鈿紫檀五絃琵琶（宮内庁正倉院事務所）



模造 黄銅合子（宮内庁正倉院事務所）

【表紙解説】

模造 黄金瑠璃鈿背十二稜鏡

長径一八・五cm 縁厚一・四cm
製作年度 平成十一年（一九九九）
宮内庁正倉院事務所

正倉院南倉に伝わる、背面を七宝で飾った銀鏡の模造。古代の鏡は鑄造により全形をつくり出すことが一般的だが、模造に際し、対象となった原宝物は特殊な製法によることが推測された。それは、十二稜形の銀鏡の上に、鈕（つまみ）をもつ十二稜形の銀板を重ね、さらにその上に大中小の花弁を六枚ずつ重ね合わせるといふ大変手の込んだ方法で、本模造も同様の方法で製作された。花弁や鈕に施した七宝の釉薬には、正倉院収蔵のガラス片に成分を近づけたものを用いるなどして、一三〇〇年前の色味の再現も叶うこととなった。

中川あや（当館学芸部列品室長）

◆御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」にて7月4日から9月6日まで展示

【よみがえる正倉院宝物】講座・関連イベント中止のお知らせ】

左の講座・関連イベントは中止とさせていただきます。また、新会期においても開催いたしませんのでご了承ください。

- ・公開講座（令和二年四月二十五日、五月十六日、五月三十日）
- ・復元楽器による雅楽コンサート（令和二年五月五日）
- ・ワークショップ「正倉院文様箱をつくろう！ ―緑地彩絵箱の彩色体験―」（令和二年五月二十三日）

臨時休館から再開館へ

当館館長 松本 伸之

当館では、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、二月二十七日から臨時休館をしてまいりましたが、緊急事態宣言および休業要請の全面的な解除に伴い、六月二日から、なら仏像館、青銅器館、地下回廊を再開いたしました。七月四日からは、特別展「よみがえる正倉院宝物」を東・西新館にて開催する予定で、これにより当館全体が再開の運びとなります。

再開館を迎えるにあたり、緊急事態宣言の発令によって不安と混乱の最中にあつた時を思うと、ひとまずほっと一息という感がありながら、いまだ十全に博物館としての役割を果たし得ていないことに忸怩たる思いもあります。

そもそも博物館とは、対象とするものを保存・継承・研究し、展示などを通じて世の中に広く成果を還元し、人類がなし得た事績に対する認識を深め、情操を育んでいく施設です。当館のように、仏教美術を中核として日本やアジアの文化財を対象とする博物館では、歴史的な文化財そのものを展示してその意義や価値、芸術性などを鑑賞していただくということが大きな眼目となっています。それを補完する教育的な事業や市民参加・交流の場としての機能についても、近年ますます重視されるようになってきています。インターネット環境が整い、高精細の画像や動画が身近なものになった今日でも、この点に変わりはありません。

ところが、新型コロナウイルスの感染拡大は、人と問近に触れ合うことが忌避されるといった、人間の諸活動が大きく制約される状況をもたらすこととなり、博物館も

休館のやむなきに至りました。今回、来館者への検温をはじめ、マスクの着用や手指消毒・ソーシャルディスタンスの励行、適切な換気、混雑時の入場制限など、様々な感染予防対策をとりながら再開を果たしましたが、講座・講演会、ワークショップをはじめとする各種の催し、そしてボランティア活動といった、重要でありながらも人と人が近接せざるをえないような事業は休止したままとなっています。博物館としてなお充分な機能を果たせていないという所以です。

新型コロナウイルスに罹患された方々の一日も早い回復を願い、感染によりご逝去された方々のご冥福をお祈り申し上げると共に、医療関係者をはじめ、日々対処に当たられている関係の皆様に対して心からの敬意を表し、ワクチンや治療薬が開発され、このような事態が早急に解消されることを切に願うものです。そして、苦悩や葛藤あるいは様々な困難に直面した時にも常に心の拠り所となれるような施設を目指して、博物館活動の弛まぬ歩みを模索していく所存です。

皆様の変わらぬご支援、ご協力を、お願い申し上げます。



再開したなら仏像館（手前のテントは入館時のチェックエリア）

❖ ご来館にあたってのお願い ❖

当館は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策を徹底した上で、6月2日（火）より一部施設を再開館いたしました。ご来館に際しては、下記の通り、感染拡大防止のためのご協力をお願いいたします。

■ご自身または同居されている方が以下の項目に該当する場合のご来館はお控えください。

- ・ 37.5℃以上の発熱や風邪の症状、だるさ・息苦しさがあるなど、具合が悪い。
- ・ 過去2週間以内に、発熱や風邪症状で受診や服薬などを行っている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた方との濃厚接触がある。
- ・ 過去2週間以内に、政府から入国制限・入国後の観察期間を必要とされている国や地域への訪問歴及び当該地在住の方との濃厚接触がある。

■入館前に非接触型体温計を用いて検温を実施いたします。

37.5℃以上の発熱が認められた場合には、ご入館をお断りいたします。

■混雑状況により入館制限を実施する場合がございます。

■入館中はマスクを着用し、咳エチケットにご留意ください。

■アルコール消毒や手洗いに協力ください。

■展示室内では会話を控え、展示ケースには触れないでください。

■他の方との距離を保つようにしてください。



体温の測定

当館では次の感染拡大防止対策を行っています。

- ・ アルコール消毒液を各所に設置いたします。
- ・ 館内の消毒、清掃、換気を徹底いたします。
- ・ 休憩スペースやレストランの座席数を削減いたします。
- ・ 接遇スタッフは、マスクや防護メガネを着用いたします。

また、出勤前の検温及び健康確認を徹底いたします。



館内の清掃・消毒

❖ 臨時休館に伴う各種会員制度の期限延長について ❖

当館は、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、令和2年2月27日から6月1日まで臨時休館をいたしました。これに伴い、奈良博プレミアムカード、国立博物館メンバーズパス（当館発行分）、奈良国立博物館賛助会につきましては以下のとおり有効期限を延長いたします。

会員証の期限を変更させていただきますので、ご来館の際には観覧券売り場にお声がけください。ただし、延長手続きの受付は令和3年3月31日までとなります。

■臨時休館中の令和2年2月27日から6月1日（賛助会は2月末日～5月末日）を有効期限とする会員証をお持ちの方

→有効期限を一律令和2年9月6日（賛助会は9月末日）まで延長いたします

■令和2年6月2日以降（賛助会は6月末日以降）を有効期限とする会員証をお持ちの方

→有効期限をそれぞれの券面の日にちの96日後（賛助会は3ヶ月後）に延長いたします

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前号でお知らせしておりました展覧会・講座・イベント等は、やむを得ず以下の通り延期または中止となりました。ご理解のほどお願い申し上げます。

【延期】

- ・ 御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物 ―再現模造にみる天平の技―」（令和2年4月18日～6月14日）
→ 令和2年7月4日～9月6日に会期を変更して開催
- ・ 開館125年記念特別展「奈良国立博物館仏教美術名宝展（仮称）」（令和2年7月18日～9月22日）
→ 令和3年夏季に会期を変更して開催予定

【中止】

- ・ 庭園公開（令和2年4月18日～6月14日）
- ・ サンデートーク（令和2年4月19日、5月17日、6月21日、7月19日、8月30日）
※9月以降のサンデートークのスケジュール等については、後日チラシ・当館ホームページ等でご案内いたします。
- ・ 春季仏像供養（令和2年4月23日）
- ・ 公開講座〈特別展「よみがえる正倉院宝物」関連〉（令和2年4月25日、5月16日、5月30日）
- ・ 復元楽器による雅楽コンサート（令和2年5月5日）
- ・ ワークショップ「正倉院文様箱をつくろう！ ―緑地彩絵箱の彩色体験―」（令和2年5月23日）
- ・ 夏季講座「奈良国立博物館と仏教美術 ―コレクションと研究―」（令和2年8月19日～21日）

◆キャンパスメンバーズ

令和2年6月30日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、大阪大谷大学、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部・関西学院大阪インターナショナル、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学・京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、就実大学人文学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学（以上、五十音順）

◆奈良国立博物館賛助会

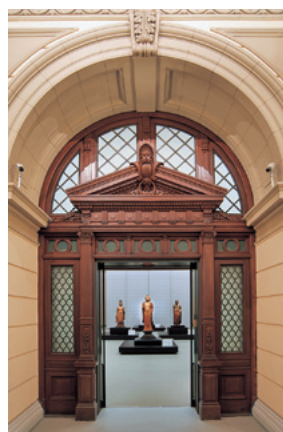
令和2年6月30日現在、特別支援会員4団体、特別会員4団体、一般会員（団体）18団体、一般会員（個人）73名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社、結の会、
(株)葉風泰夢、桃谷樓

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、
(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、
(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、
(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、
ノブレスグループ、奈良信用金庫、
ひかり装飾(株)、校倉な会、(株)南都銀行、
小山(株)、医療法人社団成風会、金剛(株)、
(有)志津香、茶道裏千家淡交会奈良支部

❖ 奈良国立博物館観覧料金の改定について ❖



なら仏像館内部西側扉

当館では、本年4月1日より下記の通り観覧料金を改定いたしました。

	現 在	改定前
一般(個人)	700円	520円
大学生(個人)	350円	260円
シニア(満70歳以上)	無 料	無 料
高校生以下(および満18歳未満)	無 料	無 料
一般(団体)	廃 止	410円
大学生(団体)	廃 止	210円

※年会費をいただいている各種会員制度については、令和3年4月を目途に新料金に移行する予定です。



なら仏像館外観

展示品の みどころ

模造 檜和琴



木製 金銀泥 森川杜園 作
長155.5cm 明治時代(19世紀)
当館

和琴はわが国に固有の絃楽器で、正倉院にはおよそ10張が伝存する。本品はそのうちもっとも小型で華やかに装飾された品の模造である。明治8年(1875)の奈良博覧会に原宝物が出陳されたのに合わせ、奈良博覧会社が模造を企画した。製作を手がけたのは奈良の木彫家・森川杜園で、彼が模造にあたって作成したと見られる原宝物の詳細なスケッチ(『正倉院御物写』東京大学大学院工学系研究科建築学専攻蔵)も残されている。

ところで本品は、原宝物と比べて螺鈿や玳瑁による装飾がなく、側面では文様を模写した貼紙をするにとどめるなど、つくりが簡略になっている。模造が行われた当時、原宝物は損傷が進み、装飾の大部分を失っていたようで、こうした事情が装飾の復元を困難にしたのかもしれない。

一方、表面を飾る金銀泥の文様は、かなり積極的な復元が試みられている。前述したスケッチには、特定の文様を繰り返し写している箇所があるが、これは原宝物では失われている文様の復元のため、杜園が試行錯誤した様子を伝えるものと考えられている。当時の模造のあり方の一端がうかがえるとともに、杜園の模造に対する姿勢をも示す興味深い作品である。

三本 周作(当館学芸部研究員)

◆7月4日～9月6日 御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物—再現模造にみる天平の技—」にて展示

地蔵菩薩立像

木造 彩色・截金
像高36.6cm
鎌倉時代(13世紀)
当館



東大寺薬師院伝来といわれる像。左手に宝珠(欠失)を載せ、右手に錫杖(後補)を執り、ともに胸前で構える。蓮華座下部の湧雲は後補のものに替わるが、当初から同様の仕様と思われる。このような乗雲の地蔵菩薩は、春日三宮の本地仏として衆生救済のため来迎した姿と考えられ、中世の奈良地方で盛んに制作された。

本像は仏師快慶(生年不詳～1227以前)による東大寺公慶堂伝来の地蔵菩薩立像とよく似ており、両腕の構えや右足を前に出しやや前傾する姿勢、截金と彩色による着衣の文様構成など、細部に至るまで公慶堂像に倣う。切れ長の目や整った衣文も快慶に通じ、その作風をよく学んだ仏師の作と解される。

また、右肩をおおう覆肩衣が右胸の下でたるむ形式は快慶法橋時代の特徴で、この期の作である公慶堂像と共通する一方、目の見開きがやや大きく鼻梁が太い男性的な面貌は快慶無位時代の作風に通じ、異なる時期の快慶作品の要素が混在するのは興味深い。小像ながら、確かな存在感を放つ入念の作である。

内藤 航(当館学芸部研究員)

◆名品展「珠玉の仏たち」にて展示

開館日時(7月～9月)

【7月4日(土)～9月6日(日)】

■開館時間／午前9時30分～午後5時

※金曜日は午後7時まで。

※入館は閉館の30分前まで。

※9月7日(月)以降の開館時間は未定です。

決定次第当館ホームページ等でご案内します。

■休館日／毎週月曜日

※ただし8月10日(月・祝)は開館。

※8月11日(火)は、特別展は休館し、名品展のみ開館します

観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。

※開館時間延長日の午後5時以降に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(レイト割引)。

※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

観覧料金 特別展「よみがえる正倉院宝物」

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,500円	1,000円	500円
団体・前売	1,300円	800円	300円

※団体は20名以上です。 ※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は当日券が400円、教職員の方は当日券が団体料金となります。

※この料金で、名品展(なら仏像館・青銅器館)も観覧できます。

※前売券の販売は終了しました。会期が変更となりましたが、ご購入済みの前売券はそのままお使いいただけます(ただしアプリビュー!でのご購入の場合は手続きが必要となります)。払い戻しをご希望の方は、ご購入場所までのお手続きとなります(9月5日まで)。詳細は当館ホームページまたは展覧会公式ホームページでご確認ください。



●バス停

[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。